

アメリカと日本の「ナード」と「オタク」文化の認識

カマウ・カーター

カルフォルニア州立大学モントレイ校

要旨

アメリカや日本で見られるように、どの社会でもよく人にレッテルを張りたがる。1900年代にアメリカでは「ナード」、日本では「オタク」という表現が使われるようになった。個性、見た目、服装や漫画やビデオゲーム、アニメが好きな人達をそう呼ぶことが多い。この研究では「ナード」・「オタク」はどのようにアメリカと日本で見られているか。そして、アメリカと日本で何が「ナード」・「オタク」のイメージの形成に影響しているのかについて調べてみた。アメリカの学生と日本の学生にアンケート調査を行った結果、アメリカの学生の「ナード」に対するイメージは典型的なステレオタイプ、つまり、勉強好きで人と関わるのが苦手、メガネをかけていて、ファッション性に欠けているなどであった。日本での「オタク」は漫画やテレビゲームなどが好きで、収集癖があるというイメージがあるようだ。またアジア人に多いという見方もあることがわかった。これらのイメージはアメリカ人も日本人もテレビや映画が影響しているということがわかった。特に日本人の場合はアニメの影響が強いようである。日本でもアメリカでも「ナード」と「オタク」にはその外見からもいいイメージはないことがわかった。

はじめに

アメリカ人の学生の間では、一般的にテクノロジーや勉強を好み恥ずかしがり屋で人付き合いの下手な人は「ナード」とよばれ、見下されがちである。一方、日本ではマンガやアニメなどが好きで、いつもその趣味に没頭する人は「オタク」とよばれ、社交性にかけると思われている。しかし実際のところ学生たちはナードやオタクに対しどのようなイメージを持っているのだろうか。また、「ナード」と「オタク」の両者にはどのような共通点、相違点があるのだろうか。この研究を通して、「ナード」と「オタク」二つの文化とその背景について調査したい。

この論文の概要は次の8つ：研究の重要性、研究質問、研究背景、研究方法、研究結果、結論、参考文献、謝辞。

1. 研究の重要性

なぜ、この研究課題にしたかと言うと私が「ナード」と呼ばれたことがあるからだ。自分が日本に行くまで、自分が「オタク」だと思っていた。しかし、日本人には私はオタクではないと言われた。そこで、アメリカと日本の「ナード」と「オタク」の違いをもっと深く文化面から知りたいと思った。

2. 研究質問

1. ナードとオタクはアメリカと日本でどのように見られているのか。
2. アメリカと日本で何がナードとオタクのイメージの形成に影響しているのか。

3. 研究背景

それでは、ここでこの研究の背景についてこの順序で話す。

3.1 「ナード」と「オタク」の定義

まず、「ナード」と「オタク」の定義について話す。Dictionary.comによると「ナード」とは世間に疎く、頭はいいが非社会的な趣味を持っている人で、「オタク」とはアニメや漫画等の熱心なファンのことを言う。

3.2 ナードに対するイメージ



それでは、ナードに対するイメージとはどんなものなのか。ナードとはこの絵にあるように学問やテクノロジーに没頭してメガネをかけているイメージがあるようだ。

3.3 オタクに対するイメージ



オタクに対するイメージはこの絵にあるようにアニメで頭がいっぱいであり、変態で、色白、そして引きこもりがちなイメージがあるようだ。

3.4 「オタク」と「ナード」に対するイメージ

オタクとナードの共通点はまずダサイということだ。そして、どちらも漫画やアニメのグッズを集める趣味があることだ。どちらも人と接することが苦手というところあげられる。

3.5 「オタク」と「ナード」の歴史

それでは、オタクとナードの歴史について調べた。まず、ナードという言葉は1950年にドクター・スースの「イフ・アイ・ラン・ザ・ズー」という本によって、初めてつかわれた。

1980年台の前半には「レヴェンジ・オブ・ザ・ナードズ」という映画でナードのイメージが形成されたと言われている。そして、1996年の「トラインプ・オブ

・ザ・ナードズ」という映画の中でPCを作ったビル・ゲイツがナードというイメージを強くしたとも言われている。一方オタクは中森明夫が1980年台にオタクという言葉を使ったことから始まる。

3.6 メディアが描写する「ナード」と「オタク」

それでは、メディアではどのようにナードとオタクを描写しているのだろうか。ナードに対するイメージは前にも話したようにあまりよくない。得に、1999年の「シーズ・オール・ザット」はナードの悪いイメージを広めたと言えた。そして、「私がモテないのはどう考えてもお前らが悪い」という2013年のアニメではオタクの生活イメージやオタクが周囲になじめず人と話しをすることが苦手な様子が描かれている。

3.7 「オタク」と「ナード」と経済効果

おもしろいことにオタクとナードは経済発展に大いに関与していることがわかった。なぜなら、ナードはテックの企業で働く人が多いからだ。また、オタクはアニメや漫画をよく購入するためアニメや漫画の産業に大きく関係している。

3.8 いじめと孤立

「ナード」と「オタク」はネガティブな用語を意味する言葉からきている。多くの記事は、「ナード」は人気のない趣味を持ち真面目であるため、人々が彼らを嫌うと伝える。「オタク」は彼らの趣味に夢中なため、周囲からとても孤立している。

4. 研究方法

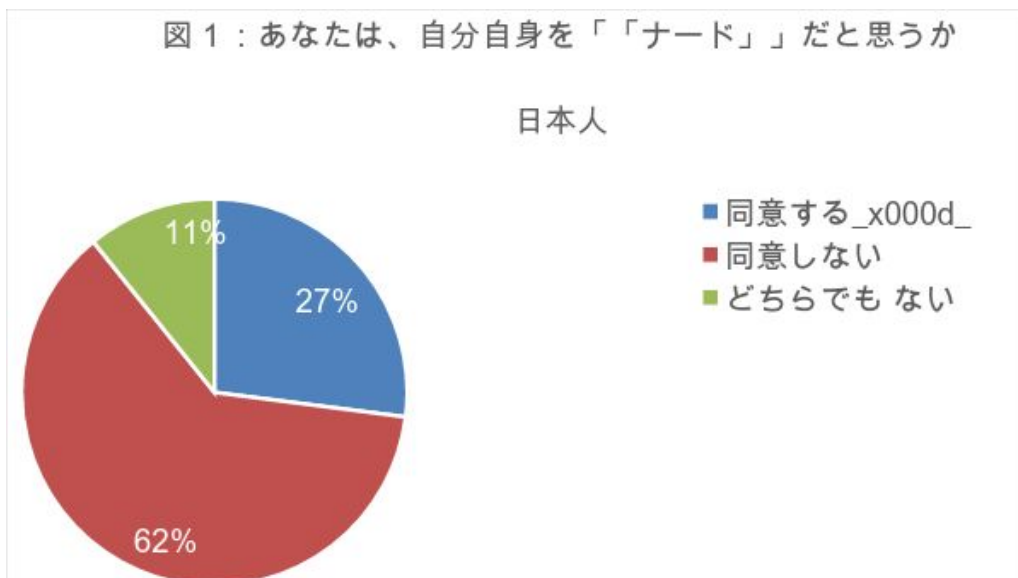
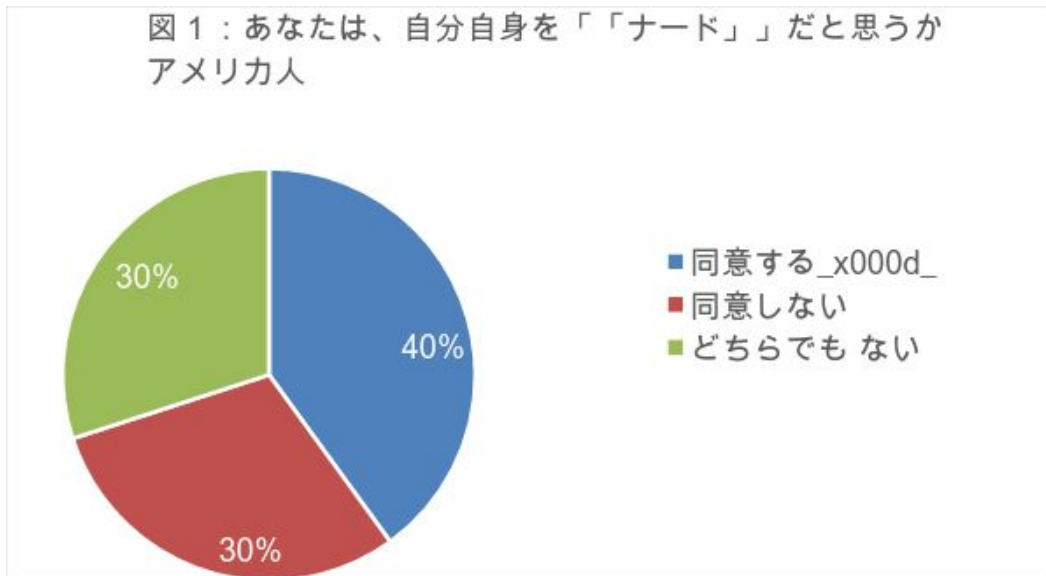
それでは、ここで研究方法について書く。参加者は、日本人の学生30人、内15人が男性、17人が女性だった。アメリカの学生30人、内16人が男性、14人が女性だった。アンケートとオンラインで行った。

5. 結果

5.1 研究質問1：ナードとオタクはアメリカと日本でどのように見られているのか。

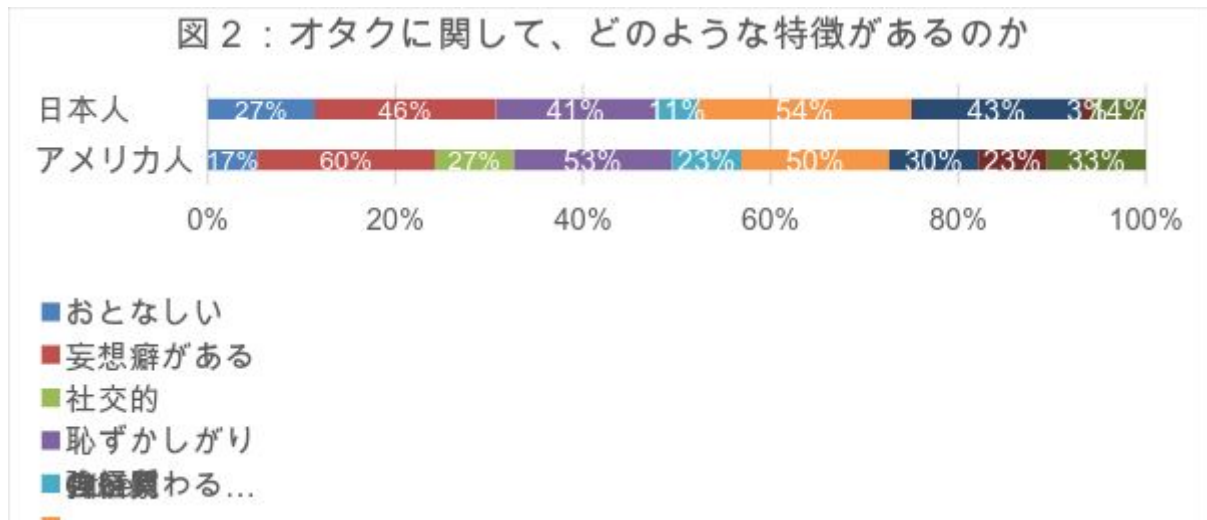
図1に示すように「あなたは、自分自身を「オタク」や「ナード」だと思

ますか」という質問にはアメリカ人は40%、日本人は27%がそう思っていると答えた。

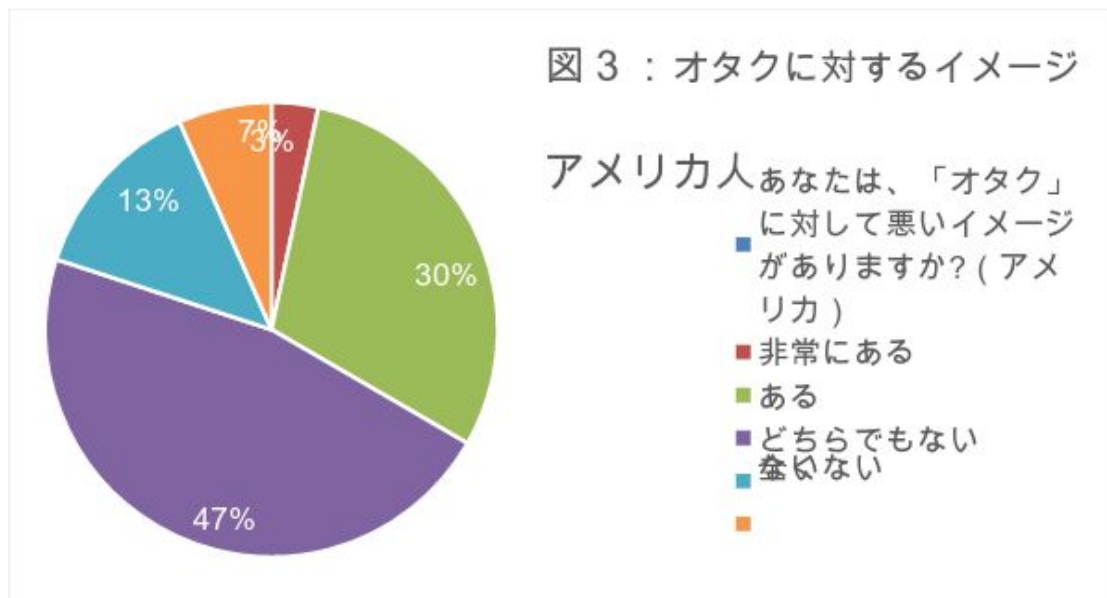


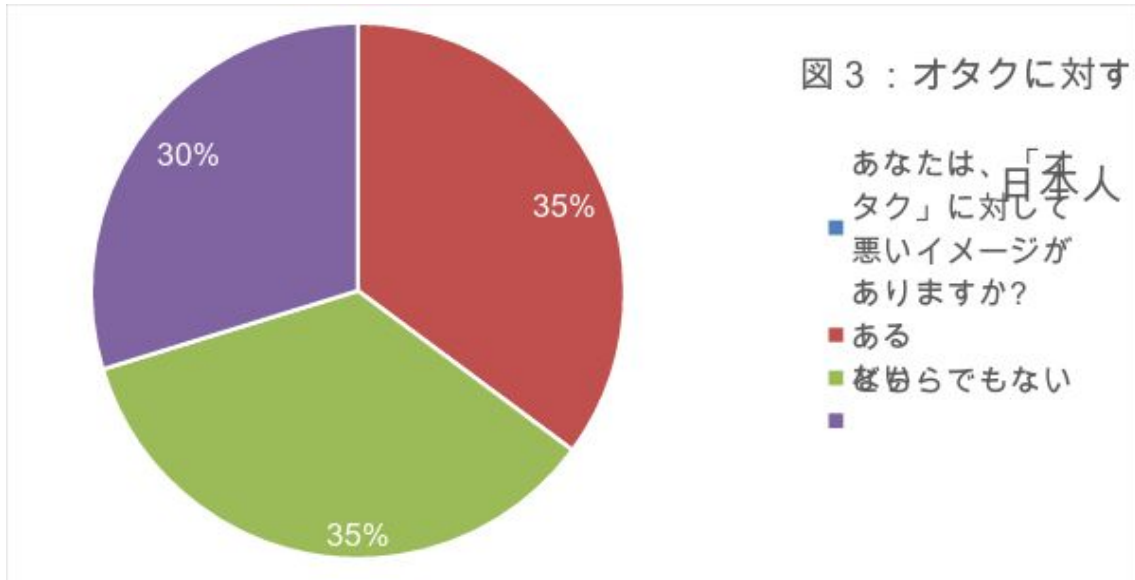
それでは、「「オタク」にはどのような特徴があると思うか」と聞いたところ、図2のような結果が出た。日本人は人と関わるのが苦手が一番多い54%、次に妄想癖があるが46%、神経質というのが43%とこの3つが主に特徴として挙

げられる。アメリカ人の場合は妄想癖があるが60%と一番高く、次に恥ずかしがり
りが53%、人とかかわるのが苦手という項目が50%以上だった。

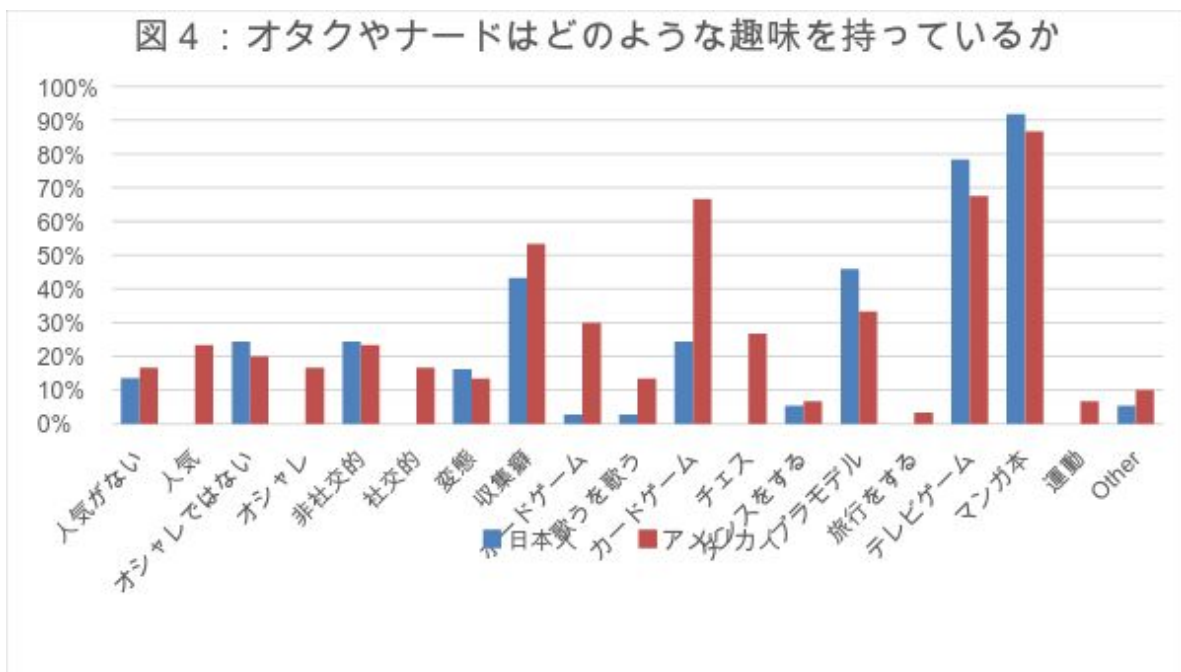


また、「オタクに関して、どのようなイメージがあるのでしょうか」。図3
に示すように日本の場合あるとないとどちらでもないが綺麗に別れたが、アメリカ
人の場合「ある」が30%、「どちらでもない」が47%だった。



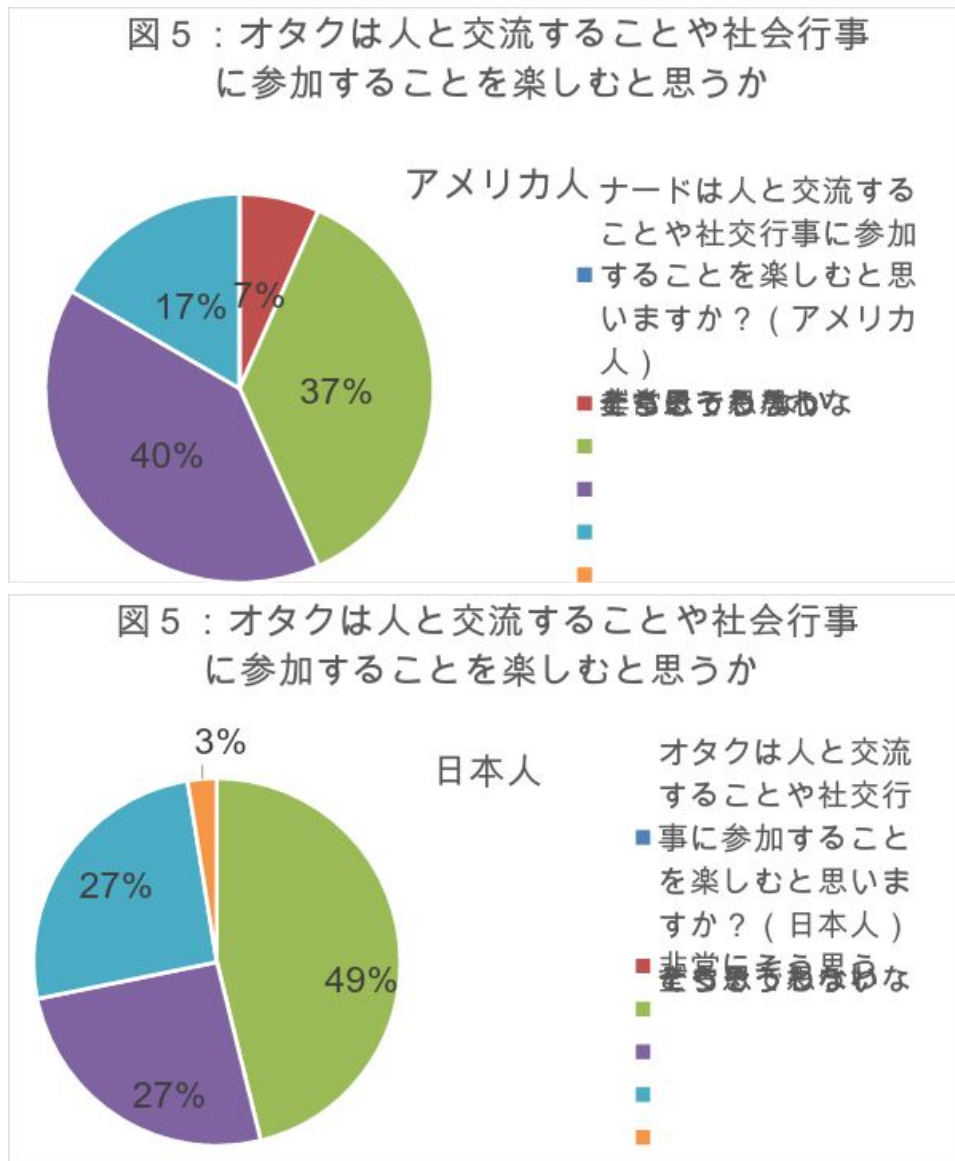


ではオタクやナードはどのような趣味を持っているかと思われるのでしょうか。そして、オタクやナードはどのような趣味を持っていると思われるのでしょうか。図4からもわかるようにアメリカ人も日本人も主にマンガやテレビゲームと答えた。しかし、3番目に多い選択では日本人はプラモデル、アメリカ人はカードゲームと異なっていた。

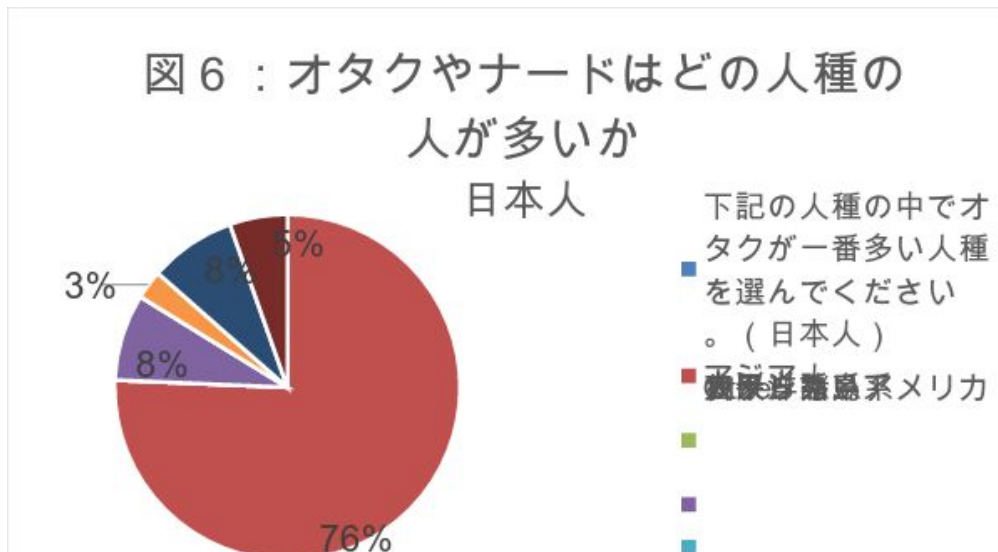
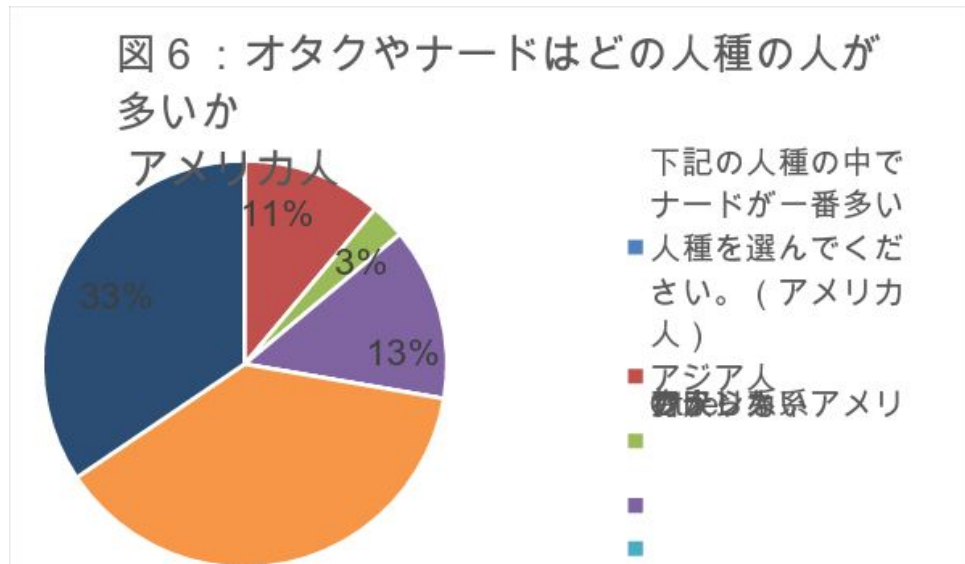


オタクは人と交流することや社会行事に参加することを楽しむと思うかとい

う質問に対しては、図5に示すようにアメリカ人と日本人の学生の約半分は「オタク」と「ナード」は社会行事に参加することを楽しむと回答した。これは「オタク」と「ナード」に対するイメージと矛盾しているといえるかもしれない。

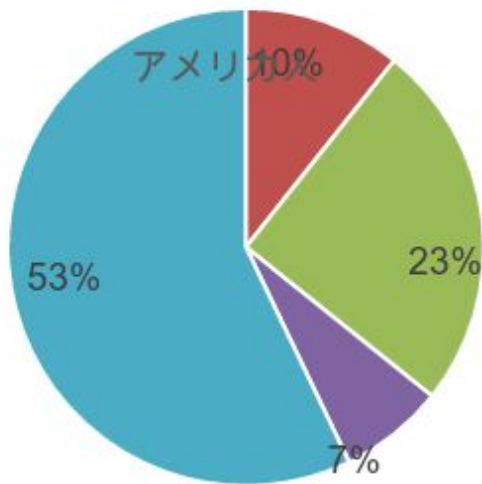


それでは、オタクやナードはどの人種の人が多いという認識があるのか。図6が示すように、アメリカ人の「わからない」とその他の「ナード」人種がないという回答は同じ位の37%と33%で、日本人の場合はオタクは「アジア人」というイメージが強いようだ。



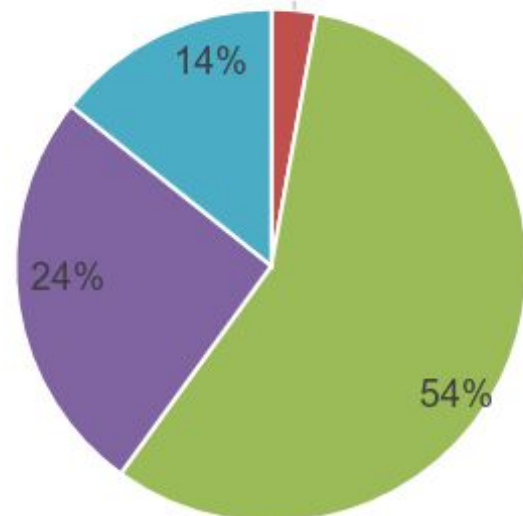
なぜ、前の質問でその人種を選んだのですか、という質問に対して図7が示すように、アメリカ人学生の53%は「その他」を選択し、特に「理由はない」や「理由を書くのは身くない」と答えた。日本人学生の54%はアジア人の「オタク」をよく見たからと回答した。

図7：なぜ、前の質問でその人種を選んだか



- なぜ、前の質問でその人種を選んだのですか？ (アメリカ人)
- 私は、メディアでその人種に「ナード」が多いのを見たことがあるか
- 私は、その人種の「ナード」を今まで一番見たことがあるから
- その人種は「オタク」で知られていて

図7：なぜ、前の質問でその人種を選んだか



- なぜ、前の質問でその人種を選んだのですか？ (日本人)
- 私は、メディアでその人種に「オタク」が多いのを見たことがあるか
- 私は、その人種の「オタク」を今まで一番見たことがあるから
- その人種は「オタク」で知られていて
- Other

それでは、オタクやナードはどのようなことをするのが好きと思われるのでしょうか。図8が示すように両学生とも、マンガが最も「ナード」や「オタク」的なアクティビティと回答し、ボードゲームとテレビ番組は全くオタク的ではないと回答していた。

図 8 : 下記のアクティビティーをすることは、どの程度のオタクだと思うか？

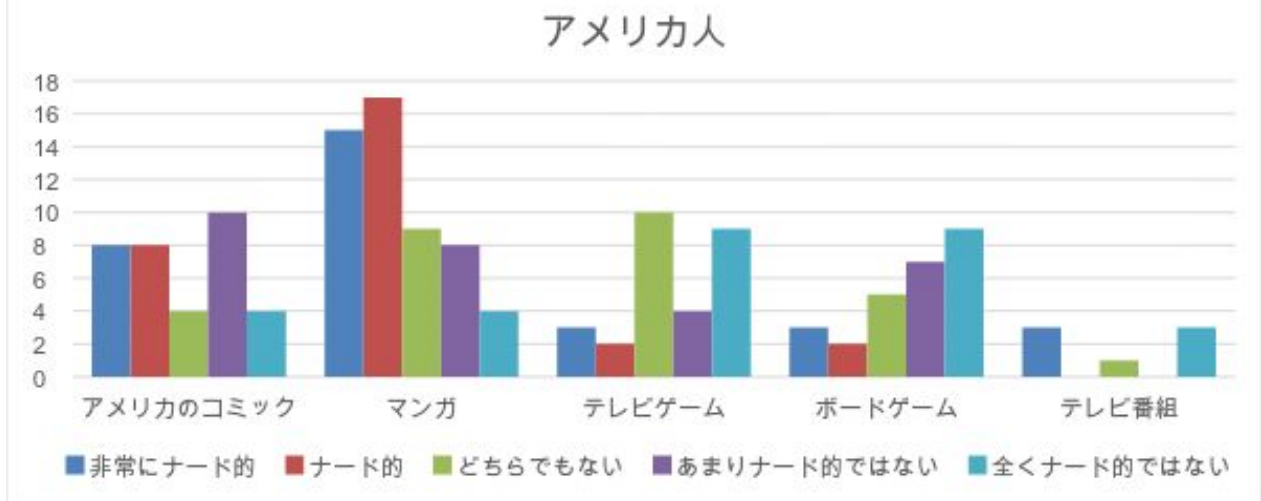
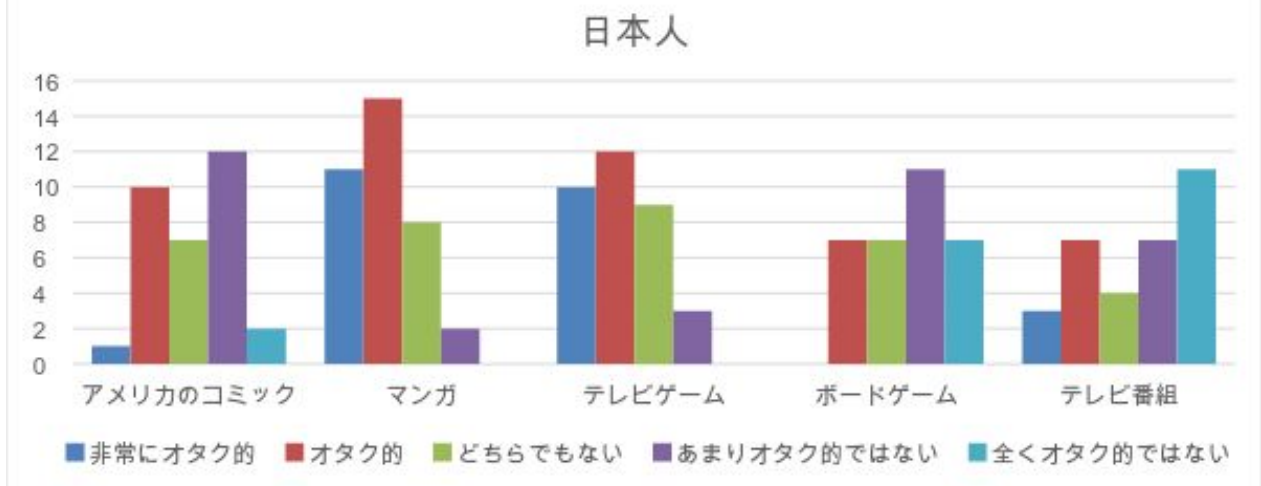


図 8 : 下記のアクティビティーをすることは、どの程度のオタクだと思うか？

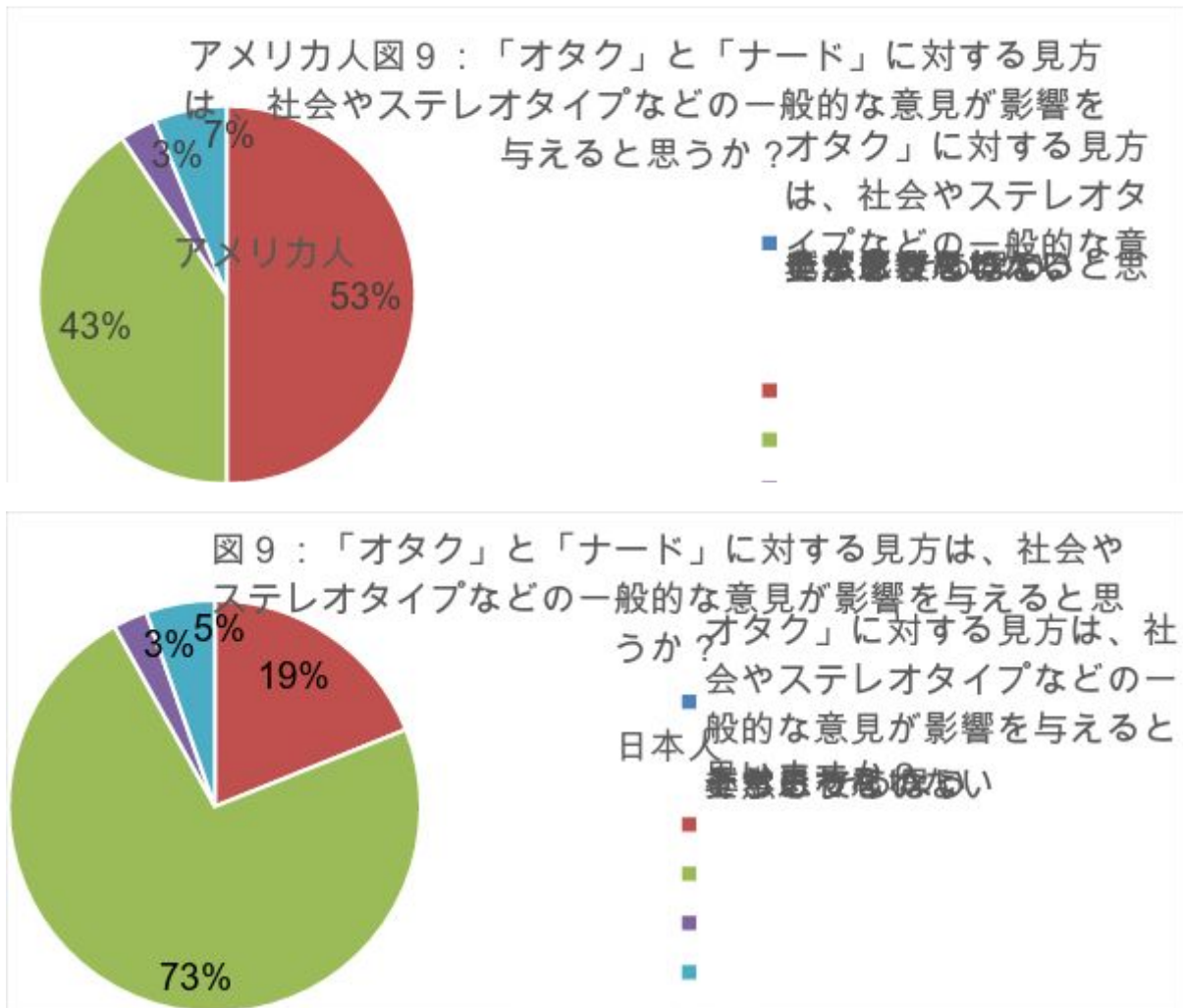


5.2: 研究質問 1 のまとめ

研究質問 1 のまとめをする。ナードやオタクは妄想癖があり、神経質で人と関わるのが苦手というイメージがあるようだ。またふつうオタクやナードは社交行事に参加したがるイメージがあるが、ここではその反対の結果が出た。また、日本人はオタクはアジア人に多いと思っているようだが、アメリカ人はナードを特定の人種とつなげてみていないようだ。また、趣味に関してはナードもオタクも漫画やコミックを好むという点では一致した。

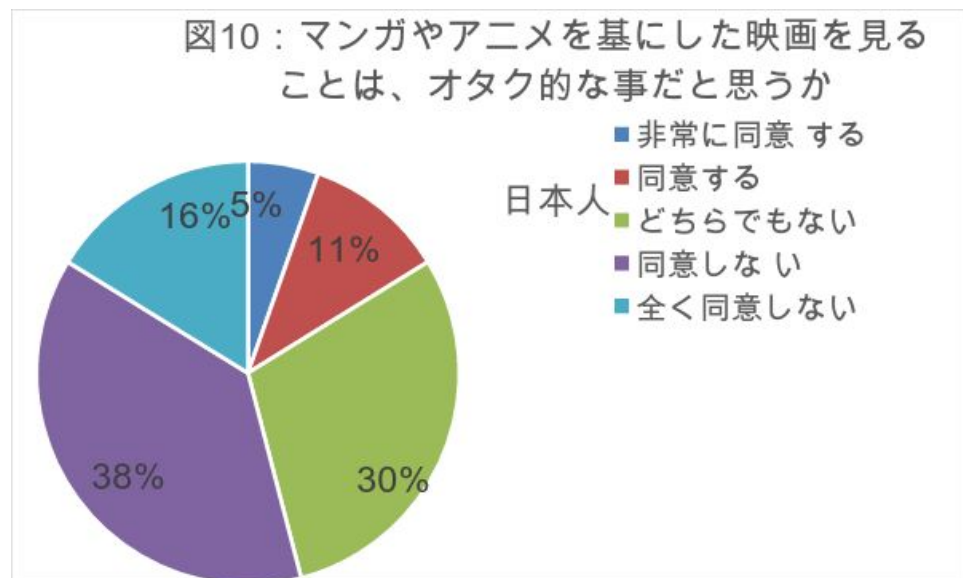
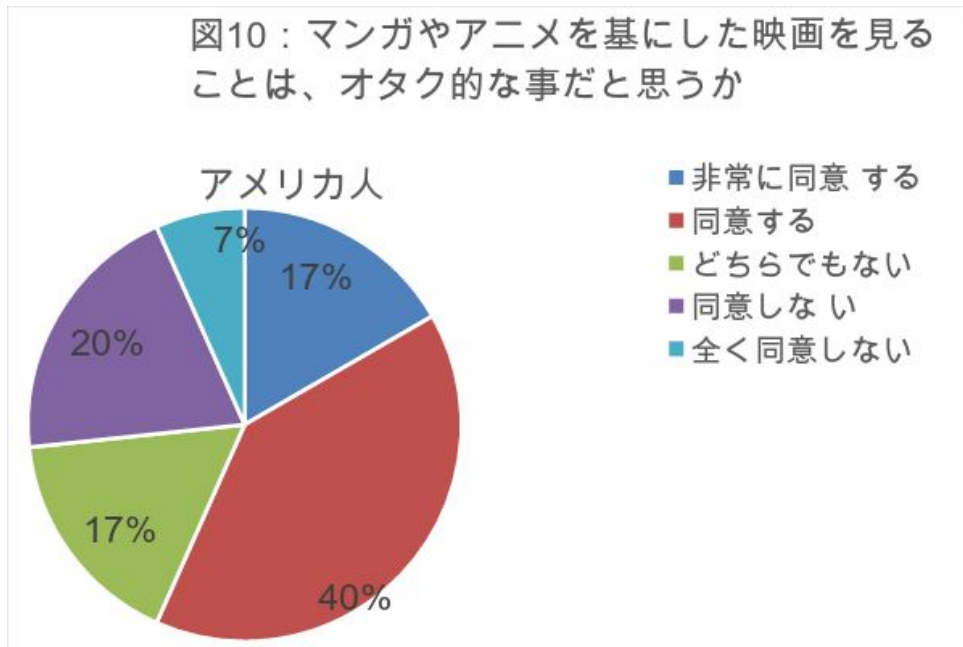
5.3研究質問2：アメリカと日本で何がナードとオタクのイメージの形成に影響しているのか

「オタク」と「ナード」に対する見方は、社会やステレオタイプなどの一般的な意見が影響を与えると思うか、という質問に対して図9が示すように、どちらの国も学生のほとんどが社会やステレオタイプなどの一般的な意見の影響からきていると思っていることがわかった。



また、マンガやアニメを基にした映画（実写映画）を見ることは、オタク的な事だと思いませんか、という質問に対して図10が示すように半数以上のアメリカ人の学生がオタク的だと回答し、おおよそ同じ人数の日本人の学生はオタク的でな

いと回答した。



そしてあなたは有名人が「オタク」に対する見方に影響を与えますか、という質問に対して図11が示すように日本人の学生の73%とアメリカ人の学生の50%は影響を与えると回答した。

図11：あなたは有名人が「オタク」に対する見方に影響を与えると思うか

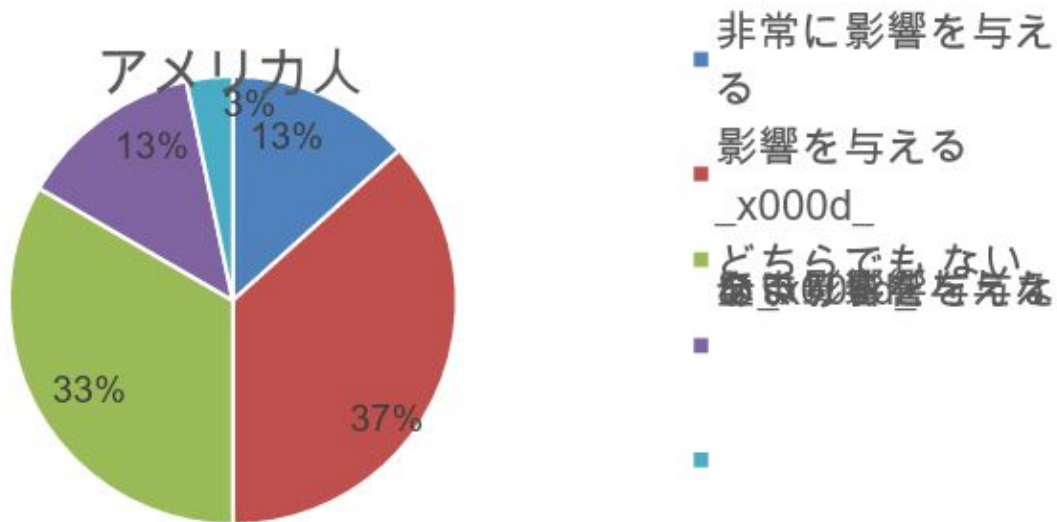
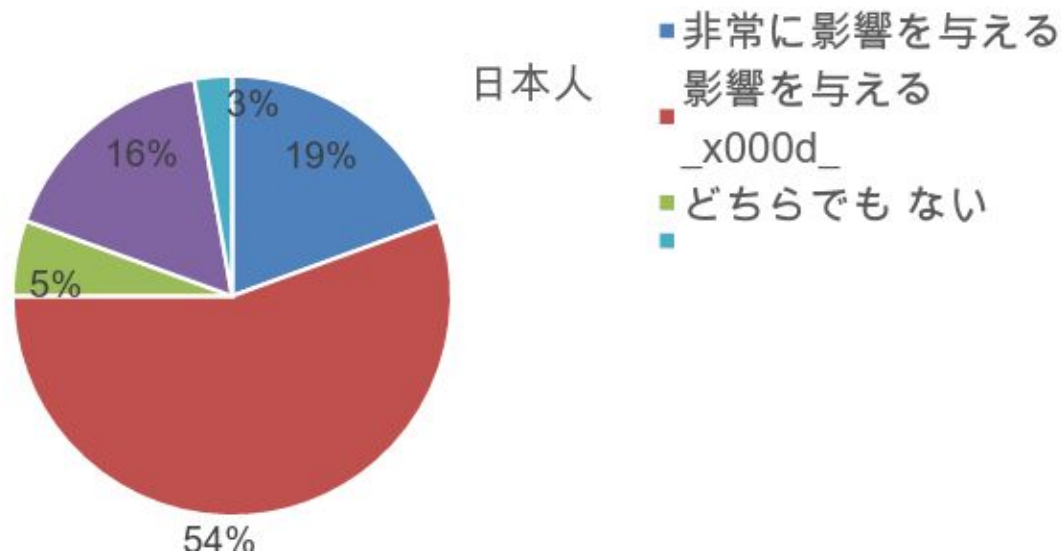


図11：あなたは有名人が「オタク」に対する見方に影響を与えると思うか



最後に有名人の中でオタクだと思う人の名前を挙げてくださいという質問に対して、日本人の学生は、中川翔子が一番オタク的な人だと考えていることがわかった。中川翔子は声優、タレント、歌手、イラストレーター、テレビ番組やポケ

モンサンデーの司会者などとして活躍しているタレントだ。これに対し、アメリカ人の学生の答えは様々だった。アメリカのテレビ番組「ファミリー・マターズ」のキャラクター、アークルは二回選ばれた。その他はビル・ゲイツや宮崎駿などであった。

5.3. 研究質問2のまとめ

研究質問2のまとめをする。ほぼ100%のアメリカ人と日本人の学生がメディアが自分たちの「オタク」に対する見方に影響すると答えた。また、アメリカ人の学生が有名なナードの架空のキャラクターを選んだことは、非常に興味深かった。また、アメリカ人は様々な人やキャラクターを選び、解答が多岐にわたったこともおもしろいと思った。一方日本人の学生はほとんどが中川翔子を選んだ。これは、彼女がマルチなタレントだということで様々なメディアに出ていることが理由かもしれない。

6. 結論

この研究からアメリカの「ナード」と日本の「オタク」は似ている点もあるが、幾つかの違いも発見した。「ナード」と「オタク」には執着心があり、マンガやアニメが大好という共通点が見られる。また、「オタク」にはアジア人が多く、「ナード」には様々な人種がいること相違点だった。アメリカ人の学生はナードと自らを認め、よりナードとしての活動を多く行っている。アメリカ人はまたステレオタイプと人種の考えに関して得に敏感なこともわかった。これは『ナード』はどの人種に多くいるか、どうしてそう思ったかときいたところ、理由を書かなかつたり「理由を言うのは間違いだ」などという意見が多かったからだ。しかし、日本人の学生はこの問題に敏感ではない。

7. 考察

7.1: 研究の限界点

研究の限界点としてナードとオタク文化の違いをさらに調査する質問が必要である。また、より多くの参加者や、参加者の多様性が必要だ。アンケートに参加した日本人の学生の多くは自分のことを「オタク」とは思っていなかった。これに対しアメリカ人の学生の参加者の多くは自分のことを「ナード」と認識していた。

この為回答に偏りができたかもしれない。

7.2 将来の研究課題

将来の研究課題は学生に限らずより多くの人を対象にアンケートすることだ。

参考文献

- Definition of NERD.* (2016). *Merriam-webster.com*. Retrieved February 10, 2016, from <http://www.merriam-webster.com/dictionary/nerd>
- Geek Spending Power.* (2016). *Web-japan.org*. Retrieved February 10, 2016, from <http://web-japan.org/trends/business/bus050830.html>
- The Origin of the Nerd.* (2016). Retrieved February 10, 2016, from www.eldacur.com/~brons/NerdCorner/nerd.html

- Triumph of the Nerds: A History of the Computer*(1996). Retrieved February 10, 2016, from <http://www.pbs.org/nerds/timeline/micro.html>
- What Kind of Otaku Are You?. (2016) Retrieved February 10, 2016, from <http://neojaponisme.com/2008/04/02/what-kind-of-otaku-are-you/>
- Why Nerds are Unpopular*. (2003) Retrieved February 10, 2016, from <http://www.paulgraham.com/nerds.html>
- Galbraith, P. (2015). *Debating otaku in contemporary Japan*. New York: Bloomsbury Publishing Plc.
- Gateward, F. & Pomerance, M.(2002). *Sugar,spice, and everything nice*. Detroit: Wayne State University Press.
- Kinney, D. (1993). From Nerds to Normals: The Recovery of Identity among Adolescents from Middle School to High School. *Sociology Of Education*, 66(1), <http://dx.doi.org/10.2307/2112783>
- Kinsella,S.(1998). Japanese Subculture in the 1990s: Otaku and the Amateur Manga Movement. *Journal Of Japanese Studies*, 24(2). Retrieved from <http://www.jstor.org/stable/133236>
- Nobuoka, J. (2010) *Geographies of the Japanese Cultural .Economy* Uppsala. University. Retrieved February 10, 2016, from <http://www.diva-portal.org/smash/get/diva2:331765/FULLTEXT01.pdf>
- Nugent, B. (2007). *Who's a Nerd, Anyway?.* *Nytimes.com*. Retrieved February 10 2016, from http://www.nytimes.com/2007/07/29/magazine/29wwln-idealab-t.html?_r=3&ref=magazine&oref=slogin
- Tocci, J. (2007). Presentation Notes for “*The Well-Dressed Geek*” (5th ed., pp. 1-9). Retrieved February 10, 2016, from <http://geekstudies.org/papers/mit5-presentation-notes.pdf>
- 中森明.(2013). 『おたく』の研究 第1回. Burikko.net. Retrieved February 10, 2016, from <http://www.burikko.net/people/otaku01.html>